

平成28年度病虫害発生予報第7号

平成28年10月4日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	吸実性カメムシ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±

果樹

・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の降水量は平年並か多い	+ ±~+
カキ ウンシュウミカン	カメムシ類	平年並	県全域	予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月下旬のカキにおける被害果率は平年並	± ± ±

・防除対策

〔ナシ・黒星病〕

落葉は伝染源となるため、適切に処分しましょう。また、10月から11月にかけては、りん片への感染が多くなります。9月2日発表の「ナシにおける病害の秋季防除情報」を参考に防除しましょう。

・留意事項

ナシうどんこ病、ブドウべと病の発生量が多いほ場では、落葉を適切に処分し、収穫終了後にナシではポリオキシソール水和剤など、ブドウではICボルドー48Qなどで防除しましょう。

カイガラムシ類が発生しているナシほ場では、落葉後にマシン油乳剤を丁寧に散布しましょう。

モモせん孔細菌病の発生量が多いほ場では、来年の伝染源を減らすため、夏型枝病斑は取り除き、秋季防除を徹底しましょう。詳細は、9月2日発表の「モモせん孔細菌病の秋季防除情報」を参考にしてください。

カキの落葉病が、やや多いほ場があります。落葉は伝染源となるため、適切に処分しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ハクサイ	べと病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	コナガ	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ±
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない	—
キャベツ	黒腐病	多い	県全域	台風16号など強風を伴う降雨が あった 10月の降水量は平年並が多い	+ ±～+
	オオタバコガ	やや多い	東三河地 域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は東三河地域では多い	± +
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ±
	シロイチモジ ヨトウ	多い	県全域	9月下旬の発生量は多い フェロモントラップにおける誘 殺数は多い	+ +
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	コナジラミ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い	+
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	炭疽病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 台風16号など強風を伴う降雨が あった 10月の気温は高い 10月の降水量は平年並が多い	± + + ±～+
	ハダニ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± +
野菜共通	ハスモンヨト ウ	やや多い	県全域	9月下旬のキャベツにおける発 生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数はやや多い	± +

・防除対策

[ハクサイ・べと病]

シグナムWDGやランマンフロアブルなどで防除しましょう。

〔キャベツ・黒腐病〕

本日発表の「野菜における台風後の病害防除情報」を参考にしてください。

〔キャベツ・オオタバコガ〕

9月2日発表の「オオタバコガ情報第2号」を参考にしてください。

〔キャベツ・シロイチモジヨトウ〕

本日発表の「シロイチモジヨトウ情報」を参考にしてください。

〔トマト（施設）・黄化葉巻病〕

定植後の発病株は見つけ次第抜き取り、適切に処分し、ほ場に放置しないようにしましょう。トマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミの発生量が多いほ場があります。ディアナSCやアニキ乳剤などで防除しましょう。植物体に薬剤がしっかりとかかるよう、丁寧に散布しましょう。訪花昆虫などを利用する場合は、影響日数に注意して薬剤を選定しましょう。

〔イチゴ（施設）・炭疽病〕

発病株を見つけたら抜き取り、適切に処分しましょう。特に台風にさらされたほ場では発生に注意し、ベルコートフロアブルやアミスター20フロアブルなどで防除しましょう。なお、苗を補植する場合は、感染が疑われる株は使用しないととも、ハダニ類などの寄生がないか確認しましょう。本日発表の「野菜における台風後の病害防除情報」を参考にしてください。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

マイトコーネフロアブルや気門封鎖型農薬などで防除しましょう。訪花昆虫や天敵を利用する場合は、影響日数に注意して薬剤を選定しましょう。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

キャベツではマッチ乳剤やアクセルフロアブルなど、野菜類ではデルフィン顆粒水和剤などで防除しましょう。

・留意事項

長雨や台風による風雨の影響で、アブラナ科野菜の細菌性病害が増加しています。本日発表の「野菜における台風後の病害防除情報」を参考にしてください。

気温の高い状態が続くと、ハイマダラノメイガの発生が続くおそれがあります。今後の気温の推移に注意して、防除を行いましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク (露地)	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+

・防除対策

〔キク（露地）・ハスモンヨトウ〕

フェニックス顆粒水和剤やプレオフロアブルなどで防除しましょう。

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

9月2日発表の「オオタバコガ情報第2号」を参考にしてください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台9月29日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。また、期間のはじめは、日照時間の少ない状態が続く所がある見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率が60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 10% 平年並 : 30% 高い : 60%

〔降水量〕 少ない : 20% 平年並 : 40% 多い : 40%

〔日照時間〕 少ない : 40% 平年並 : 40% 多い : 20%